



ヴィジュアルデザイン研究室

Visual Design Lab.

今井 美樹

IMAI, Miki / Professor

空の鏡 科学からおまじないまで、月の多様性を明瞭化する

Mirror of Sky: Clarifying the Moon's Diversity from Science to Spells

私たちの生活の中には沢山の『月』がある。かぐや姫や狼男などの昔話や言い伝えがあったり、女性の出産や月経に関係していたり、お菓子のモチーフになったり。最近では月旅行の計画があったり。周期的に満ち欠けを繰り返している一方で、何ヶ月に一回、何十年に一回などのペースで月食やスーパームーンのような特別な現象があったりする。

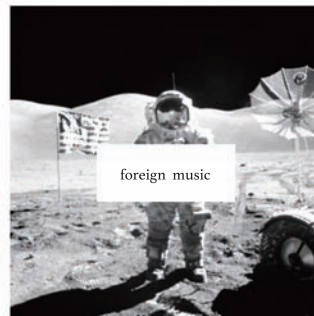
『月』の存在の多様性を示すため、天文学のような科学に基づいた情報から月の神秘性が人にもたらす心理的効果まで、複数の切り口で『月』を編集した。

数値データによる基本要素をまとめたポスター。ことわざ単語帳。タイトルに詠まれた名曲CD。表紙に描かれた書籍の数々。魔法の指輪。満ち欠けによる人の情緒を表した8つのショートエッセイ。おまじないのキャンディー。さまざまなかたちで表現した。

『月』は様々な分野でそれぞれに色々な顔を持っていて、身体的にも心理的にもこれほど多岐に渡って私たちに影響しているものは数少ないのではないだろうか。



尾上 采加
ONOUÉ, Ayaka



God is Good —世界の神様を想像&創造する—

God is Good: Illustrations of Gods of the World by Creation and Imagination



私はネパールの文化の根幹である宗教や寺院に興味を持ち、それについて調べた際に、神話に登場する神様たちが非常にユニークな見た目をしていてから世界の神々に、興味を持った。

私たち日本人は、特定の宗教を信じている割合が他国に比べて少なく、「神」に対して怖い・近寄りがたいというイメージを持っていたり、そもそもあまり興味がないという人が多い気がする。

そこで、私は世界の神様たちが、名前・由来・能力などを含めて、不思議で興味深い存在であるということを用意して、ユーモラスに伝え、興味を持ってもらいたいと思った。

壁画や石像などで表わされている神様の、長年の歳月で失われた部分を自分の想像で補い、イラストで表現している。この作品はイラストレーターというソフトで制作しており、イラストをコピーすることによって統一感を持たせつつ、バリエーションを増やしている。

北川 真衣
KITAGAWA, Mai



『集まり』の解明

Illustrations for the Clarification of “Gathering”

無意識のうちに自分が『集まり』に惹かれていることに気づく。その謎を解明するべく、イラスト作品を毎日制作し、同時に私が『集まり』に関係すると感じた作家の研究を行った。

作品を増やしていくうちに、自分にとっての『集まり』とは「手描きによるモチーフの繰り返し」であり、それによって生まれるズレやシュールな面白さ、非日常性、キャラクター性、誘目性などの効果があることが判明した。また、モチーフの繰り返し方を集合性と規則性の観点から見ると5つに分類できることが分かった。

現在では作品数400を超え、これらの作品をtwitter、pixiv、instagramのSNSで投稿、twitterはフォロワー数15,000人に増加。グッズ販売サイトboothを開設し、合計40個以上売れた。イラストのデザイン依頼も3件受けた。12月には展覧会も開催した。

今後もアーティストとして『集まり』を描き続け、シュールな面白さを追求していく。



鳴岡 颯人

SHIMAOKA, Hayato



旅館「新清館」のブランディング

Branding for the Japanese Inn “Shinseikan”



レターセット



お茶菓子



地酒



石鹸

私の実家は、大分県九重町の高原地にある、明治35年創業の老舗旅館である。自然に囲まれた源泉掛け流しの温泉は、湯治としても利用される炭酸水素塩泉で、黄金に輝くのが特徴である。周辺には、吊り橋や牧場などの観光地もたくさんある。しかし、その魅力を十分に伝えきれていないと感じ、新清館のブランディングを行った。

現在の主な旅館の利用者は、40代以上の男女だが、違う世代の方にも興味を持ってもらいたいと思い、20代女性をターゲットとした。そして、リピーターとなってもらうために、「地域の魅力と、旅館で過ごす特別な時間の虜にする」をテーマとし、制作を行なった。

ロゴは、温泉が黄金色に光り輝く様子を一本の円弧で表現し、116年続く旅館の歴史と未来を象徴している。旅館のPR用のパンフレットやレターセットを始め、オリジナル商品である四季毎の九重町の草花をモチーフにした茶菓子、温泉成分で作った石鹸、そして旅館周辺の地域を丸ごと気に入ってもらうために、地酒、ポストカード、ガイドマップを制作した。

清水 愛未

SHIMIZU, Manami



よそ者から見たあいりん地区

The Airin District Seen by a Stranger: Representation by Photography of the Town where Day Laborers Gather

あいりん地区は、大阪市西成区に位置する街です。私の生まれ育った天王寺と隣接し、小さい頃から「近づいてはいけない」そんな風感じていました。あいりん地区がそのように存在し、利用する人々に興味をもちました。様々な参考書を読み、半年間この街に足を運び写真を撮りました。「街で写真を撮る行為はタブーである」、どの参考書にもこのように記載されていました。実際、怒鳴られたり追いかけて回されたりしましたが、街の雰囲気を感じ取ってもらいたいと思い撮り続けました。

これらの写真で、2018/12/12～16の5日間ギャラリー風雅で個展を開催しました。見た方からは、「懐かしい、変わってない」や「こんな街があるんだ」など、様々な意見を頂きました。大阪市民でも知らない方が多く存在することが分きました。

1970年頃から存在するこの街に、最近では外部からのボランティアの方が増加し、この街を支えています。この写真をきっかけに、私のように街に興味をもち、自分自身で足を運ぶ人やボランティアを行う人々の発展に貢献できたらと考えています。



富本 恵未

TOMIMOTO, Emi

